

平成28年度 第1回甲賀市子ども・子育て応援団会議【会議録】

1 市民憲章唱和

2 開会あいさつ

【健康福祉部 岡根理事】

みなさまこんにちは。健康福祉部理事で子育て支援を担当しております岡根でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、本年度第1回となります甲賀市子ども・子育て応援団会議に、大変お忙しい中ご出席いただきまして心より御礼を申しあげます。また、平素は、市政推進、とりわけ児童福祉の分野におきまして、それぞれのお立場でご支援を賜っておりますことを、改めまして心から御礼申し上げます。

この子ども・子育て応援団会議は、健康福祉部のこども応援課と教育委員会のこども未来課が事務局になっております。代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。

11月に入り、秋を楽しむ季節もいかほどか早く過ぎました。一気に冬の寒さを感じてきております。市行政では、ご存じのとおり先日市長選挙もありました。新市長も子育て支援の充実について政策のメインにおき、子どもたちの未来に立ち止まることなく邁進せよとの命をうけておるところであります。

さて、国内各地において少子化や核家族化の進行、また経済的な不安感により子育てに対する負担感が増加するなど、子育てを取り巻く環境は、時代の流れとともに大きく変化し、厳しくなっています。

本市におきましても例外ではなく、少子化の急激な進行などにあわせて、児童虐待や子どもの貧困の増加など、子育てに関わる課題が顕著に出てきているところでございます。

このような中、本市におきましては、子ども子育て支援をさらに充実させるため、その支援施策を総合的かつ計画的に推進するための計画として、子ども子育て応援団会議の委員の皆様にご審議をいただきまして、平成27年3月に「甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画」を策定しました。そして、本年度は、この計画からはじめて一年を経過しました。みなさまにお世話になり、作り上げてきたこの計画が実行されてきたか、また次の年度の計画はいかほどに、「計画をたて、実行に移し、見直しをする。」というルーティーンに基づき、進めていくことが、重要と思っております。そして、市民の皆様をはじめ事業所あるいは関係団体の皆様と行政が、協働、連携しながら、様々な子ども応援施策を実践に変えていくこと。ネットワークづくりが、いかに大切かを感じております。

委員のみなさまには、推進しております施策がより素晴らしいものになるように、それぞれのお立場、ご経験から忌憚のないご意見をいただけたらと思っております。

また、本日は各施策の報告事項と併せまして、来年春にオープンを計画をしております、甲賀創健館の花風香の湯の跡に「子育て世代包括支援センター」を、今整備をして

いるところであります。あとで詳しく事務局から説明いたします。この施設は本市で初めての試みとなります、室内で大型遊具を使って遊ぶ子育て支援施設となっております。親子の絆を深めながら、甲賀市での子育てが楽しいと思っただけのような施設を、「甲賀流の子育て」をコンセプトに、現在工事を進めております。これからこの施設の愛称も皆様に募集をかけていきたいと考えております。また、明日12日土曜日になりますが、子育て団体のみなさまの熱心な取り組みにより、子育て応援フェスタを開催されます。

最後になりますが、輝く未来と無限の可能性をもつ子どもたちの健やかな成長のために、委員の皆様のご協力をお願い申しあげ、開会にあたりましてのあいさつとさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

3 出席者紹介

別紙名簿のとおり

4 議事内容

【大橋会長】 では、みなさま改めまして神戸女子大学の橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私は大学は神戸女子、住まいは滋賀、生まれも育ちも東京。滋賀には十数年。

いま、大学では、アクティブラーニング。文科省の補助をうけている。対話できない学生が増えてきている。自分で自ら学び、実行するという空気が大学生の間で減ってきている。

H31年には再課程認定というものがあり、教育学科をもっている大学が時代のニーズにあった保育士・教員養成養成をするように。私も毎週の会議により幼児課程や教員課程についてどのような大学のカリキュラムを作っていけばよいかと取り組んでいる。併せて国際社会も課題となっている。私の専門は幼児教育、乳幼児保育となり、6年ほど前から文科省から研究費をいただき、保育カリキュラムの構築を担っている。幼保一体化が進む前から保育園と幼稚園の温度差をどう埋めるかという保育教育カリキュラムを作っていくもの。

本日はいろいろな方面からの委員の皆様からご意見を拝聴賜りたいと思っております。

それでは、議事に入らせていただきます。その前に会議の成立について、事務局から報告いただきます。

【事務局】 本日の会議の成立について、ご報告させていただきます。

本会議設置条例第6条第2項では、「会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことが出来ない。」とされております。

本日の会議には、本日現在での委員総数21名中17名の委員にご出席

いただいております。ことから、過半数の委員の皆様にご出席をいただいております。会議開催の要件を満たしていることを、ご報告させていただきます。

【大橋会長】 それでは、次第に基づき議事を進めます。まず、資料の確認を事務局からお願いします

【司会】 <資料確認>

【大橋会長】 資料についてはよろしいでしょうか。それでは、次第に基づきまして進めていきます。

はじめに、昨年度の会議で説明があったように、この会議の公表については、会議の傍聴及び議事録の公表により行います。また、議事録については、ホームページ等で公開させていただきます。

また、議事録については、会議がより透明性を図ることから、議事録には発言をいただきました委員の方のお名前も併せて掲載させていただきます。公開をさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。

では、報告事項の「甲賀市子ども・子育て応援団支援事業計画に基づく事業の実施状況について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】 <説明要約>

・資料1 計画4章の量の見込みに対してH27実績を計上、100%に達していることがベスト。資料中⑥子育て短期支援事業については、0%であり、受け入れ施設の準備ができなかったことが要因。H28では、受け入れ施設との協議中。

・⑪病後児保育事業について80%の実績。要因は施設利用者の申込みが重複し、利用をお断りしたケースがある。H28では施設の拡充について協議をすすめる。

・⑤放課後児童クラブでは100%を超過児童クラブがある。地域差がでているが、今後の学校再編も踏まえ適正なみなおしが必要。

・③実費徴収に係る補足業務について、計画策定時は未実施の事業。H27から実施したため、今後の見込み及び確保について、こども未来課から説明。

【事務局】 ・③実費徴収に係る補足業務について、対象者は生活保護世帯で、保育に係る実費分（わら草履「みさとっこ」、運動会用Tシャツなど）の費用の補助。翌年度からの対象者を見込み、別紙のとおり計画。

【事務局】 ・資料2「5章子ども・子育て支援事業の方向性」について、平成27年度の実績および平成28年度計画を各課から本年8月に報告しまとめたもの。それぞれの額については、総事業費全体で計上しているもの、（ ）内は予算決算共に再計上しているものがあり、担当ごとに記載方法が異なっている。この点について、主要なものは次の資料3で説明し、資料2については、疑問や質問については後で伺いたい。

・資料3について、「6章こうか子ども・子育て応援5つの重点プロジェクト」。本計画期間中、最も重点をおいて取り組むべき事業を計上。

・★マークについて、総合計画後期基本計画の重点プロジェクトになっているものに「重点」、人口減少に歯止めをかけるための甲賀の國づくりプロジェクトについて「國プロ」と標記。

・「教育・保育、子育て支援プロジェクト」について、保育園の受入強化や児童クラブの増設等を強化。平成27年7月から家庭的保育事業所「ひだまり」を開設。平成28年度から保育士の労働環境の改善及び業務量を軽減するため、「保育支援者」の制度を導入。現在9名7カ所の保育園で活躍。「病児保育事業」についてはまだ未開設。本年度協議を進めている。

・「身近な地域での子育て支援プロジェクト」について、応援団ネットワーク形成事業で子育て団体へのバックアップを継続して実施。11月12日には本事業において、子育てフェスタを開催される。平成28年3月開始の子育てポータルサイトでは行政情報の発信を実施。平成28年度からはさらに事業を拡大し、行政情報だけでなく、市民参加型のポータルサイトへリニューアルする。

・「家庭の自立・社会参加支援プロジェクト」について、発達支援の児童や家庭に対する相談体制の強化。「学習支援」については、平成27年度から実施。生活困窮世帯等の子どもの居場所づくりをメインに基本的な生活習慣やコミュニケーションを育てることを目的に実施。ひとり親家庭の支援については、職業訓練の給付事業や就労相談を実施。ひとり親ふれあい交流会事業などで相談業務の強化を図っている。母国語支援員については、保育園やこども応援課に配属。

・「子育てと仕事の両立推進プロジェクト」について、平成28年度からワークライフバランスの啓発促進のため「マザーズ就労相談」を実施。

・「子どもと子育て家庭を支えるプロジェクト」について、「小中学生通院医療費助成」、平成28年1月から未就学児から小学3年生まで事業を拡大した「子育て応援医療」を実施。子育て世代包括支援センター事業や子育て支援センター、児童クラブ、保育士等の子育て支援員の研修強化を実施。

【大橋会長】 ただいま事務局から資料1～3および資料6について、平成27年度実績および平成28年度の計画について説明がありました。ご意見などがありましたら、ご発言をお願いいたします。

【西田委員】 選挙が終わったばかりではあるが、市長は人口を減らさないとやっている。平成40年には甲賀市の人口72,000人になる。市の広報75,000とは3千人ほど差があったように思う。まだ選挙あってすぐのため、市長の公約は反映されていないと思うが、人口減を食い止めるのにどのよ

うに反映することをお考えですか。理事や部長へ伺いたい。

資料2の1ページ目3行目の予算額について、予算142,188千円、決算65,012千円と予算と決算に大きく差があるのはなぜか。また6行目に予算400千円、決算が229千円、他にも1行目は予算2,000千円確保し、決算が0円。資料3の1段目の予算額142,188千円、決算64,714千円。10月開設とはいえ、なぜこのような差がでるのか。

資料1の甲南の1号認定の見込みの計画179、実績0で確保100%になっている。どのようなことか。

【大橋会長】 では資料の整理をいたします。

1点目は公約について

2点目は予算の資料何番でしたか

【西田委員】 <再確認>

・資料2、1ページ目、3行目予算額142,188千円、決算額65,012千円となっており、この差は何か。

・資料3にこども未来課の同額の予算142,188千円とあるが、こちらは決算額64,714千円、資料2と予算額は同額であるのに対し、決算額の差はなぜか。

・予算額と決算額に大きな差があることについて伺いたい

【大橋会長】 3点目は資料1の見込みと計画と実績の説明を事務局からお願いします。

【岡根理事】 質問の総論の部分ですが、新市長が公約に申しているとおおり、人口10万人をめざす。積極的な施策を打って出ると表明している。応援団事業計画の前に、甲賀の國づくりプロジェクトとして一昨年前から取り組んでいる。その中で人口減少に対応するため、働く場の創出のために工業団地誘致、家を建てる場所を増やすために市街化調整区域にもう少し家を建てられるようにするなど、人口を増やすため、それぞれ國づくりプロジェクトで進めている。しかし、甲賀市に住みたい、働く場所だけでなく、子育てを楽しくできるといった要素も、市に人口を呼び込むのに大切である。この支援事業計画の大部分は國づくりプロジェクトでの重要な部分であると位置づけをしている。市全体で、子育てだけでなく、人口減少対策について、市外にむけてはシティセールス、忍者をキーワードに市の施策を広く周知している。

【事務局】 予算額と決算額の乖離について、資料3のこども未来課の「あんしんすこやか保育応援事業」については、現額の理由と1点目として、家庭的保育事業「ひだまり」今年度7月からの開所。開所が当初見込んでいたよりも遅れたことによる委託費の減額の一部。

大きな差の要因は、平成27年4月から保育制度が大きく変わった「子ども子育て支援新制度」により平成26年度に平成27年度の予算

をつくる際に国の詳細が分からず、予算の計上とその実態に差がでてきた。このことにより、大きな差がでてきたが、今後は1年経過しているため、このような差はでない。

資料2と資料3で同じ項目の決算額の差があることについて、298,000円の差については、資料3の國づくりプロジェクトの4事業の対象にならないものを省いているため。

【大橋委員】 3点目の質問はどうか

見込と計画と実績の違いについて

【事務局】 資料1の見込みと計画の違いはこのあと会議中に回答いたします。

【西田委員】 資料2の項目2について、平成28年度は減っているけど増えないのか。平成27年度の決算65,012千円より平成28年度42,776千円の予算が少ないという事、減っているというのはなぜか。事業を縮小するのか。

【事務局】 施設整備費（民間施設の増築補助）が平成27年度に含むため

【大橋会長】 それでは資料1の質問についてはこのあと事務局から回答いただきます。それでは次に進めてまいりたいと思います。

「子ども子育て応援団ネットワークの概要」について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 <説明要約>

- ・応援団ネットワークは市の総合計画の重点事項。子育てを支援する複数の団体や組織が手を取り合い、様々な課題の解決にむけ、話し合ったり、具体的な事業へ結びつけるためのネットワーク。

- ・行政や区・自治会、民生委員児童委員などの団体だけでなく、子育て世代の保護者自身や子育てを応援する企業が集まり、多方面からのネットワークが必要。

- ・イメージ図から「地域」「情報発信」「課題」「イベント」をキーに、ネットワークの様々な団体や組織が得意とする分野で、力を発揮いただき、大小さまざまなグループでネットワークを構成し、図のような大きなネットワークをイメージしている。

- ・既に事業が進んでいる項目については、このネットワークを支えている事業「子ども子育て応援団会議」「ネットワーク形成事業」「子育て応援ポータルサイト」「子ども・子育て応援団ネットワーク（地域会議）」。

- ・今後については、市の要綱を制定し、ガイドラインにまとめ、それを総括するためのネットワーク事務局（資料7）の立ち上げを予定している。

- ・本会議ではアドバイスやアイデアをいただき、今後のルールづくり、

ガイドラインづくりの参考にさせていただく。

【大橋会長】 ただいま事務局から資料7について説明がありました。ご意見、ご質問がありましたらご発言願います。

【大橋会長】 いい企画だと思う。

甲賀市にお邪魔して4年目となり、委員の皆様のあたたかいご意見、つながりを感じさせていただき、いつも心地よく自宅に戻っています。この応援団ネットワークの発案もいいものと思っている。大学等の関係者は必要ないのか。ある市で3年前とったアンケートの中で一つの例として、保護者より保育者（士）のほうが若い。項目の例として、保育園で保護者と保育者はいつも話し合いができているのかの項目に対し、保護者は話し合いできていると答えている。保育者は話し合えてないとの回答。若い保育者は保護者に対して遠慮をして保育をしているのかなと思う。組織の中で子育てしているものが、働いているものが、本当はどんな思いでいるのか。2000人データとった。回収率50%1020人程度。保育者への研修はどうか。一生懸命しているけどネガティブな傾向にある。みんなでネットワーク作って、その立場の者も必要かと思う。未定であればそれでいいですが。

【事務局】 まだ詳しくは未定であるが、今後は先生のようなご意見いただきながら、いろいろな団体や有識者の方々にご協力いただきたいと考えている。

【大橋会長】 他に質問はありませんか。なければ先ほどの案件について、事務局からお願いします。

【事務局】 先ほどの資料1の質問について、1号認定の甲南地域については、具体的には甲南幼稚園のこと。子ども子育て新制度に基づき計画したが、計画時は私立園もすべて移行されると見込み計画をたてた。しかし、平成27年度は対象となる園がこの制度に移行されておらず、平成28年度からこの制度に移行したためである。平成27年度の実績が0になっているのは、甲南幼稚園が新制度の対象となっておらず、幼稚園はもちろん運営され、170名程度の利用はあったが、この新制度の1号として計上されていないことを示している。

【大橋会長】 次に「子育て世代包括支援センター」について、冒頭の理事のご挨拶にもありましたが、経過について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 <説明要約>

- ・今年度創健館を改修し、子育て支援施設として改修している。
- ・平成27年度の応援団会議では前計画の図面をご紹介した。
- ・会議の中及び子育て団体の皆さんから意見をいただき、進めてきた
- ・5つの重点プロジェクトとして子育て総合支援センターとして位置づけしている。

- ・概要が妊娠期から出産、子育ての切れ目のない支援。子育てのワンストップサービスを提供

- ・産前産後のサポート機能、子育てに関わる支援、相談、交流が大きな柱である

- ・具体的なレイアウトを説明

幼児のプレイルーム、乳幼児のプレイルーム

ランチスペースは、お昼をとれるところがほしいとの声から設置し、食事の提供は難しいが、持ち込み可能。乳児連れの相談が可能な畳の相談室、事務室は施設全体が見渡せるよう配置。静養室で産前・産後のサポート機能。

多目的広場は全天候型で遊べるスペース。遊具を各年齢別に配置。赤ちゃんから年長児まで遊べ、保護者の目の届く位置に配置。露天風呂跡地に砂場を設置。

- ・公園、図書館との一体化

- ・多目的広場は土日開設を予定

- ・今後は運営や事業について検討していく

- ・平成29年3月15日に完成予定

- ・平成29年4月開設予定

【大橋会長】 子育て世代包括支援センターについて、ご意見、ご質問がありましたらご発言願います。

【富岡委員】 子育て世代包括支援センターの説明があったが、資料2の186項目に「子どもの居場所づくり」として、2億3千587万6千円の整備費を計上されている。子育て包括支援センターのみが載っている。これだけの整備費が必要とっていいのか。子どもの居場所づくりでは、各地域の支援センターに設置すべきと思う。

また生活困窮者自立支援法の設置による学習支援事業について、生活保護世帯に準ずる家庭が対象とされている。どのように準ずる世帯を把握しているのか。

外国人の児童についての取り組みについて、未就学の子だけでなく小中の児童も対策をとらないといけない。湖南省では、学校に専門の先生を配置されている。学習支援など教育委員会と連携しないといけないことがたくさんある。そのあたりどのような形で連携しているのか伺いたい。

【大橋会長】 今後の見込みについて事務局から回答願います。

【事務局】 子どもの居場所づくりについて、2億3千587万6千円の整備費のみとなっているが、子供の居場所づくりとしては、子育て世代包括支援センターだけでなく、子育て支援センターや教育施設と連携をとり、子供が安心して遊べる施設を造らないといけないと考えている。

- 【事務局】 生活困窮世帯については支援法に基づき学習支援を実施している。生活保護受給者はケースワーカーが声をかけている。ご質問のあった準ずる世帯について、生活保護にいたらない家庭については、実態把握が難しい。健診時の情報や保育園の迎えの状況、学校からの状況などいろんな形で健康福祉部に情報が入ってくる。メニューのひとつとして、学習支援がある。特に、民生委員児童委員からの情報をいろいろいただいている。その子供さんに対し、いろいろな支援の中で学習支援が適当と思われる家庭に案内をしている。
- 【福山部長】 教育委員会からお話しします。外国人の子の支援については、資料2の108項目で、必要な学校に母国語支援員を配置。人数については現在資料が手元にないが、このような支援をしている。
- 【大橋会長】 この会議で何か決定されるものではないが、委員の意見を拝聴する。他にご意見はあるか。
- 【富岡委員】 法制度の狭間で置き去りにされた方、その方たちをどのように、どのような施策で支援にとりくむのか。
生活困窮の連鎖をどのように断ち切るかが、甲賀市の子育てで大事ではないか。また先ほど委員が言われたように少子高齢化にともない人口減少への歯止めが大きな課題であり、2025年問題などで言われている。このままいけば制度が崩壊するとまで言われている。子ども子育て支援計画を立てるときに、そのような状況を加味してほしい。
- 【大橋会長】 今のご意見については、関係部署で検討いただき、案件については時間をかけてご審議いただければと思います。
- 【鵜飼委員】 子育て世代包括支援センターでは、未就学を対象とうかがった。今まで子育て支援センターは幼稚園に入ると使えなかった。どこまでの年齢が使えるのか。
- 【事務局】 子育て支援センターは今まで通り未就園対象であるが、多目的室については、未就学まで範囲を広げ利用いただける予定。
- 【市井委員】 学習支援で信楽、水口、甲南とあるが、甲賀、土山教室はないのか。各町にひとつは今後できるのか。生活困窮者の居場所づくりということだが、虐待、ネグレクトなどはホットラインもあるし、学校へ行っている方は学校へ連絡すればいいと分かるが、そうでない場合、市ではどこが窓口か。
- 【事務局】 学習支援について、土山、甲賀は子どもが少ないため、甲南へ送迎している。何かあれば生活支援課へ連絡いただければ協議する。
教室に来られない子どもに対し、家庭への訪問をしている。
虐待等についての窓口は、こども応援課内に家庭児童相談室がある。また、市の窓口は家庭児童相談室であるが、他にも保健師や学校へ相談し

ってもらう方法がある。

- 【富岡委員】 生活保護以外の準ずる家庭にどのように対応しているのか。教育委員会では、生活保護家庭は要保護、準ずる家庭は準要保護と把握されている。その家庭へアクションをおこすことはできないか。把握はそのような方法でできるのではないか。
- 【大橋会長】 それでは現状をお話しただければと思います。
- 【事務局】 準要保護は教育委員会で把握しているが、何百人といる。現在の体制として全部に声はかけられない。先生方と調整しながら、現在の施設で受け入れしている。
- 【富岡委員】 現在の学習支援対象者は、生活保護家庭の児童が中心、水口は外国人家庭中心と聞いている。
- 【大橋会長】 では、いろいろな思いについての意見交換についてはそれぞれでこの後進めていただければと思う。
- 以上で、本日用意されました議題は全て終了いたしました。委員の皆様には、それぞれの立場なりからのご意見をいただき、また円滑な議事の運営にご協力いただき、ありがとうございました。それでは、「進行」を事務局にお返しいたします。

5 閉会あいさつ

【辻 副会長】

子ども子育て応援団支援事業計画ができて1年半がすぎ、新しい市長は子育てに重点的に取り組むという意気込みのようである。この計画が前倒しになることを期待し、本日の会議を終了したいと思う。

6 事務連絡

7 閉会